

悪魔羅祓いの儀 密室連続射精事件

山牧田 湧進



【まえがき】

※【「注意ください」】

- ・この作品はフィクションです。実在の人物・地名・団体等とは一切関係ありません。
- ・この作品は成人ゲイ向け官能小説であり、男性同性愛を語っています。同性愛に嫌悪感を抱く方はご覧にならないよう、お願い申し上げます。
- ・この作品は表現の誇張、強調や省略のある、必ずしも現実には即していないファンタジーであることをご了承ください。
- ・特に作品中の性的描写は、現実の性交渉における性病等のリスクを意図的に排除しています。現実と混同しないよう、ご注意願います。
- ・この作品は想像して楽しんでいただくものです。現実との区別を付けられず、犯罪や迷惑行為に及ぶ危険のある方はご覧にならないでください。

【あらすじ】

環境が一新して、穏やかな学生生活を取り戻したと安堵した矢先のこと。

いきなり現れた生徒会長に『悪魔が取り憑ついている』と因縁を付けられ、生徒会室へと拉致られてしまった陽出は、『悪魔祓ばちい』と称して磔はりつけにされたうえで股間に酷い仕打ちを受けてしまう。

そこに柴崎が現れて助かった、と思いきや、柴崎は悪魔祓いのネタに乗っかってしまい、結局、陽出は悪魔祓いの儀を受けるハメに。

最後は噴き出す悪魔を会長に直撃、大量に御見舞いしてやって問題を解決。ところが、それはただの伏線に過ぎなかった。

射精の飛距離で寄付金の額が変わるというトンデモプレゼンに、噂に違わぬ射精能力を持つ陽出を参加させようと生徒会は画策。

陽出はその真意を知らぬまま、プレゼンが開催される合宿へと誘いざなわれてしままうう。

しかし、その前夜、オートロックのシングルルームに就寝していたはずの陽出は次々と夜這いを仕掛けられて、プレゼンを前に射精し尽くしてしまうのであった。

夢か現実か、謎のジュースの差し入れと密室トリック、そして、プレゼンの結果と夜這いの犯人とは如何に。

【主な登場人物】

・出水田 陽出（いずみだ ようでる）

さらに成長を続けて179cm 116kgに到達の健康優良児。ピッカピカの一年生。珍しい苗字に困ったキラキラネーム、トンガとのハーフでどこもかしこもでっかく育ち、股間を中心に何かと注目を集めてしまう運命の持ち主。だいたい最終的には盛大にぶっ放して場を収める（収まってない）が、それが次の火種に繋がってしまったりもする。ゲイの自覚が早く、オヤジ専と自認している。

・柴崎 竜生（しばさき たつお）

陽出に好かれるために生まれてきたようなオヤジ風貌の同級生。陽出よりも一回り小さいが絶対的にはそれでも十分に大きい方。陽出をよく誂かつかい、性的に目立たせてしまう主犯格だったりもするが、なんやかんやと陽出に惹き

込まれてゾッコンになっている模様。陽出を周囲に見せびらかしつつ渡さない、という謎の恋愛観を持つ。

（彼の台詞では「おれ」や「おまえ」などがひらがな表記になります。（校正ミスが無ければ）（あったらごめんなさい）

表紙	1
まえがき	2
あらすじ	3
主な登場人物	5
第1章 プロローグ	8
第2章 悪魔羅祓いの儀	17
第3章 インターミッション	19
第4章 連続密室射精事件	21
第5章 エピローグ	23
奥付	25

プロローグ

第1章

あ、お久しぶりっす。出水田いすみだっす。

え？ お前そんなキャラだったか、って？

ですよー。んでも、一応ね、進学したんすよ、KOU校に。

環境が変わると影響を受けるのかなんか分からないけど、ちょっと変わっちゃ

うってこと、あるよねー。

あ・る・よ・ね？

あ、相変わらず隣には柴崎しばさきが居ます。

「あん？ あんだ、てめえ。おれの陽出ようでるに手を出すんじゃないやねえ」

なんか凄んでますけど、中身はただの脂ギッシュでエネルギーギッシュ、男性ホルモン出過ぎ系の中年オヤジです。年齢30くらいサバ読んでます、多分。な？

竜王？

「誰がM字ハゲだ、コラ。……じゃないや、1個すつとばしちったじゃねえか。だから、『竜王』ってのはやめろっての。おれは『竜生』。柴崎 竜生（しばさき たつお）、ピッカピカの一年生です。年齢詐称はしていません！ とうか、細かいこと言うと出水田より若いんですよ、これでも！ ……一ヶ月ほどですが、ほら、おまえも知らない人のために自己紹介しておけ」

あ、はい。出水田、出水田 陽出（いずみだ ようでる）。トンガ-halfでキラネーム、デカ、デブ、ゲイ、そして、太めオヤジ専というアルティメットマイノリティです。自分で言っていて悲しくなってきた。

この度、無事進学しまして、ええ。一応、通える範囲では一番難しいと言われているところなんです、それで、その、あの、……勉強できる人って、ちょっと変な人の割合が高いような気がしません？

「早速、ブーメラン刺さってるけど良いんか？」

「うっさい、あんたんも変な人の部類じゃ」

「おれは出水田になんとか付いて行こうと無理して頑張って合わせただけで、天然の出水田とは純度が違う」

「こらこら、後半の説明が端折り過ぎてて、天然水の宣伝みたいになっとるぞ」

「良う出るもんなく。水芸みたいにピューピューぴゅうぴゅう湧きまくって」

「何がじゃ、どっからじゃ」

「決まってるだろ？ あそこからだ。ピューピューってより、ビュルルッピュルルルッ！ って感じだけだな」

「あーもーなー。なんで両親は俺にこんな名前付けてくれちゃったんだろうな。ただでさえ変なキラキラネームなのに、射精するたびに裏声で『ヨーデルヨーデルヨーレイヒー』とか歌われてみ？」

「あ？ おれは歌ったこと無えぞ。誰だ？ 誰に歌われたんだ？ おれ以外の誰に射精を見せたんだ、おまえは？」

「み、見せてない見せてない。でも、どうしてもそういうイメージが浮かんじゃ

うだろ？」

「まあな」

「ちょっとは否定して……」

「っていうか、出水田自身がそんなに気にしているのに、良くそれでこの学校受験する気になったよな。『浦越』^{うらこえ} Kou校。丸被りじゃんか」

「だって、選択肢が無かったんだってばよー。『今年うちで確実に合格できるのは出水田だけなんだから絶対にここ受けろ』って先生に言われて、はいオシマイ、よ」

「ほー、デキが良すぎるとそうなるのか」

「そういう柴崎はどうだったのさ？」

「おれ？ おれは『出水田と同じところ』って言ったたら、『無茶言うな、高望みにも、ほどがある』って五七五で言われたんだけど、おやじがギロリと先生を睨^{にら}んで、『何だって？ もういっぺん……、言ってみろ』って字足らずで返してさ。

内申の吊り上げとかできないから本当に難しいぞ、とか言われながら渋々許諾もらって」

「うお、そんなギリギリだったの？」

「ああ。『受かった』って先生に報告したら、『ミラクル』だって言われたついでに『カンニングでもしたのか?』とか失礼なこと言われたんだけどよ、『カンニングしたんじゃない?』って同じ点にしかならないんだから内申で負けちゃうだろ?』って返して『それもそうだ』って納得してもらったよ。おれ、試験のとき絶好調だったし、これも『神の導き』ってやつなんじゃない?」

「まあ、他の受験生全員落ちて、俺と柴崎だけだからな。見事に『浦越』に相應しい変人が篩ふるいに残ったって感じ?」

「おれが変人かどうかは置いておいて、変人といえばあいつ、玄川、玄川 龍人(くろかわ たつひと)。あのクロちゃんもなかなかの変人だったけど、あいつは残念ながらお勉強は苦手だったようで……」

「その代わりかどうか分からないけど、根回しとか権力闘争とかに強そうだったけどね。っていうか、クロちゃんなんて呼び方したことあったっけ？」

「無えけど、あいつ結局卒業まで全然声変わりしなかったし、ほら、ベースモデルとなっている有名人の方が最近ことさらに変態推ししてるもんだからキャラ被りが酷くて……」

「発言がメタいなー。実は前からネット配信とかで片鱗は見せてたんだけけど地上波でそこをクローズアップするようになったのは結構最近なんだよね」

「お、出水田が突っ込まずにメタ被せしてきた。新鮮だなあ。でも、まあ、何とつか、やっとこさ、せっかくあの変人とは学校が別になって、接点ほぼほぼ無くなったと思っていたらなあ……」

「なあ。俺ってばアヤツに呪いでも掛けられてるんかね？ それとも、この地域一帯が玄川一族の支配下なわけ？ ってか、何でこうクリティカルに変人にばっか絡まれるんだ、俺は！」

「どうどう。興奮しない興奮しない。多分、運命（作者のさじ加減）なんだから

諦めて受け入れよ、な？」

「な？ って、柴崎、おめえも加担してたじゃねえか！ ってか、」

「ちいも」

「じゃねえか！」

「のことだろ？」

「……がっくり」

「もう起きちまったことは仕方ねえんだから、とりあえず、……冷静になって己を振り返り、懺悔なさい」

「おいおい柴崎、お前、ちよつと感化されてない？ 何か、口調の端々に『悪魔祓い』の影響が残ってる感じがするんだけど」

「出水田の体内に無限に増殖する悪魔を祓うのはわたくしのお役目ですから」

「うわああっ、まだそのノリ続いてんのかよ。悪魔に取り憑かれてるのはお前の方なんじゃねえの？ 俺からしたら、お前の方がよっぽど悪魔っぽいわー」

「いいから。はい。その一部始終を克明に独白するのです、出水田陽出よ」

「わ、分かったよ。それでは、どうぞ」

第2章

悪魔羅祓いの儀

(こちらは体験版です)

第3章

インターミッション

(こちらは体験版です)

第4章

連続密室射精事件

(こちらは体験版です)

第5章

エピローグ



(こちらは体験版です)





悪魔羅祓いの儀／密室連続射精事件

OpusNo. Novel-053
ReleaseDate 2019-02-06
CopyRight © 山牧田 湧進
& Author (Yamakida Yuushin)
Circle Gradual Improvement
URL gi.dodoit.info

個人で楽しんでいただく作品です。
個人の使用範疇を超える無断転載やコピー、
共有、アップロード等はしないでください。
(こちらは体験版です)